

2007年3月29日

会計基準のコンバージェンスに向けた共同プロジェクトの第五回会合開催

企業会計基準委員会
国際会計基準審議会

2007年3月27日及び28日、企業会計基準委員会(ASBJ)と国際会計基準審議会(IASB)は、会計基準のコンバージェンスに向けた共同プロジェクトの第五回会合を東京で開催しました。この会合には、ASBJから斎藤委員長をはじめ6名のボードメンバー及びスタッフ、IASBからTweedie議長をはじめ4名のボードメンバー及びスタッフが参加しました。

今回の会合では、ASBJ及びIASBの参加者は、以下の項目について議論を行いました。

- ASBJのプロジェクトの進捗状況(短期項目及び長期項目のうち無形資産(含む開発費)、過年度遡及修正、連結の範囲(特別目的会社の開示))
- 実務対応報告第18号「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」で扱われている要修正項目
- 退職後給付に関するIASBのプロジェクトの最近の進展(*)
- 概念フレームワークにおける測定及び企業結合に関するIASBと米国財務会計基準審議会(FASB)との共同プロジェクトの最近の進展(*)

(*)当該テクニカル・セッションは、前回の会合での合意に基づき、公開で行われました。

さらに、IASBからの要請により、ASBJは、共通支配下の取引に関する日本の会計基準に関する情報提供を行いました。

ASBJ及びIASBの参加者は、それぞれのプロジェクト・プランにしたがって共同プロジェクトが進展していることを確認いたしました。

このような議論により相互理解を深めることは、ASBJ及びIASBでの今後の審議に資すると考えられます。

斎藤静樹 企業会計基準委員会委員長は、「2005年以来、5回にわたるこの会議を通じて、我々は日本基準と国際財務報告基準(IFRSs)とのコンバージェンスに向けて大きく前進することができました。この間におけるTweedie議長をはじめとするIASBメンバー及びスタッフの貢献と協力に感謝しています。」と語っています。

David Tweedie 国際会計基準審議会議長は、「IASBの参加者は、共同コンバージェンス・プロジェクトにおける、退任される斎藤委員長のリーダーシップ及び協力に感謝しています。彼の尽力により、日本基準とIFRSsとの差異が縮小しています。」と語っています。

次回の会合は、2007年9月にロンドンで開催する予定です。